

ハシブトアジサシの繁殖習性観察

張躍文・金連奎・梁余
遼寧鳥類研究センター
訳 福井和二

ハシブトアジサシ *Sterna nilotica* (Gmelin) は俗に噪鷗^{ノウ}という。国内の分布は黒竜江、内蒙古、河北、遼寧、新疆、江蘇、山東、河南、福建、広東、台湾等の各省で、遼寧地区では夏鳥として渡来する。

ハシブトアジサシの繁殖習性に関する国内の報告はいまだにない。1989～1990年の間、我々は盤錦地区の双台河自然保護区においてハシブトアジサシの繁殖習性の観察を行ったので、その結果を報告する。

観察地の自然概況

盤錦双台河自然保護区は、盤錦市の西南に位置し、東は大遼河から、西は大凌河まで、南は渤海に臨み、盤山、大窪両県に跨がり、その面積は約800km²である。当地区は北温帯、半湿潤、季節風気候で、年平均気温8.5℃で、1月の平均気温-10.4℃、年間最高気温35.1℃、凍結期間154日、年平均降水量611mmで、7、8月に集中的に降雨がある。全地域が低地で、至るところに河川溝渠があり、水域の面積は8800haに達し、水生生物の数も多く、魚類だけでも40種以上を数える。植物の主なものは、ヨシ、塩吸¹、碱蓬²、ガマなどであり、鳥類の繁殖には最適な場所である。

1. つがい形成、交尾

ハシブトアジサシは毎年4月に渡来し、9月下旬に渡去する。その間約6ヵ月、通常アジサシと混群でヨシ原を含む沼沢地、河口の干潟などに好んで生息し、水面を泳ぐのをよく見かける。餌として小魚、エビ、小さなカニなどを食べている。

ハシブトアジサシは年1回繁殖し、集団営巣する。毎年4月下旬、求愛行動が始まり、交尾に先立って雄がくわえてきた餌を雌の前に落とし、頸を伸ばして小走りに歩く、その餌を雌が受け取ると、雌は雌の前で両翼を下げて小刻みに震わせ、体をひざまずくように低く下げ、頸を伸ばして頭を挙げ、口を開けて、ほとんどその場で3～5分動作を繰り返へした後、雌の背に乗り交尾が行われる。交尾時間は1～2分。

2. 営巣

ハシブトアジサシは毎年5月上旬営巣を開始し、巣作りには雌雄ともに関わる。巣材は近くで集め、毎回一本の巣材を拾い上げてくわえ、巣の方向に向かって頭を振り巣材を投げず、少しずつ転がして巣の中へ運ぶ。

今回、我々は二ヶ所のコロニーで39巣を調査したが、この二ヶ所の周辺環境はそれぞれ異なっており、巣間の最小距離は45cmで、この両繁殖地の生息環境は以下の通りである。

第1の繁殖地は18巣、エビ養殖場内の802mほどの平坦な場所で、碱蓬、塩吸が生え、周囲の養殖場は水深15～120cmである。

第2の繁殖地は21巣、水路にそった幅35mほどの土手の上で、植物は生えていない。最も水辺に近い巣は35cm



しか離れておらず、残りの巣も2 m以内のところにあった。水路の水深は約30~150cmである。

ハシブトアジサシは円板状の巣を地面に作る。巣材の選択と量は付近の環境条件によって決まる。我々が観察した第1の繁殖地では巣材が豊富で、全てヨシと碱蓬の茎が用いられ、最上面には新鮮で柔らかな碱蓬の葉が少量置かれていた。最も大きい巣を計測したところ、外径は27.0×29.0cm、内径14.0×15.0cm、巣高7cm、深さ4cmであった。

第2の繁殖地では前者より巣材が乏しく、水に曝されたヨシや碱蓬の茎を利用し、巣も浅く、ほとんど扁平状のものであった。最も小さい巣を計測したところ、外径は14.0×15.0cm、内径10.0×10.0cm、巣の高さと深さはいずれも2.5cmであった。8巣の計測値は外径平均22.0(15.0~27.0)×12.8(10.0~14.5)cm、巣の高さ平均4.6(2.5~7.0)cm、巣の深さ平均3.0(2.5~4.0)cmであった(表1)。

表1 ハシブトアジサシの巣の測定値 単位 cm

	1	2	3	4	5	6	7	8	平均
巣の内外径	23×14	23×13	23×14	27×14.5	26×14	19×12	20×10	15×10	22×12.8
巣の高さ	5.5	4.5	6.0	7.0	5.0	3.0	3.0	2.5	4.6
巣の深さ	4.0	3.8	3.6	3.5	3.9	2.0	2.0	2.5	3.0

3. 抱卵期

ハシブトアジサシは毎年5月中旬には産卵を開始する。通常1巣3卵、あるいは2卵か1卵のこともあり、4卵は珍しい。卵の地色は緑褐色、または褐色、あるいは淡黄色で、全体均一に濃い褐色あるいは紫色の斑点がある。時には、同じ巣の中に前述の異なる地色の卵をみる場合がある。10卵の平均重量は31.96(29.0~35.3)g、平均卵径50.3(48.0~54.5)×36.0(35.0~37.0)mm(表2)。

表2 ハシブトアジサシの卵測定値

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
卵重 g	33.6	32.7	31.1	33.0	30.8	30.5	29.5	34.1	35.3	29.0	31.96
卵径 mm	51×36.5	50×36	49×37	52×36.5	50×35	48×36	48×35	52×36	54.5×37	48×35	50.3×36

ハシブトアジサシは第1卵を産むと直ちに抱卵をはじめ、雌雄共同で抱卵する。一般的に3卵を産んだ後、巣を離れることはめったにない。時々、人が浸入すると産卵直後の鳥は巣を放棄してしまう。5月22日、我々が観察したB号巣では、何者かに驚き放棄したハシブトアジサシの卵2個をキョウジョシギが啄んでいた。

5月24日我々が60倍望遠鏡によりA号巣で610分間観察した。この間2羽の成鳥が7回転卵を行い、その最も短い間隔では26分であり、長いもので207分であった。平均81分に1回転卵を行ったことになる。ハシブトアジサシの抱卵期間は29~32日である。

4. 育雛期

ハシブトアジサシは早成型の鳥で、孵化が始まってから48時間、絨毛が乾くのをもって、雛は立ち上がり、巣を離れて走り始める。雛は灰色あるいは白色の絨毛に被われ、暗灰色、あるいは黒色の

表3 ハシブトアジサシの雛の測定値 単位 mm

	体重	体長	嘴締	嘴裂	附蹼
1	25.3	100	10	20	19
2		95	10	19.5	18

斑点がわずかにある。

その 1 巢のなかに異なった羽色をした雛が混在しているのを確認した。雛の嘴は肉色、もしくはやや赤みを帯びた肉色をしており、嘴の先端に白点がある。跗蹠は肉紅色、脚は太くしっかりしており、腹部は白色の絨毛に被われている(表 3)。

5. まとめ

我々が調査した期間は雨天が多く、なかでも 1990 年 5 月 19 日夜は大雨が降り、ハシブトアジサシの巢のほとんどが流されたり、水没してしまった。また 6 月 22 日には雹が降る豪雨があり、60 巣以上が全滅した。

5 月 26 日、当地の油田関係者が各所の 50 巣におよぶハシブトアジサシの卵を獲り食用としてしまった。ハシブトアジサシの繁殖が自然災害によるほか、人為的破壊行為による被害を軽く見ることは出来ない。行政はハシブトアジサシの良好な繁殖環境を保全するために、繁殖地の管理を強化し、鳥類保護知識の教育普及と、鳥類の生息、繁殖に良好な環境を創造することに努めなければならない。

訳注

- *1 塩吸；中国の植物図鑑で検索出来なかった。俗名ではないか。
- *2 翅碱蓬(*Suaeda heteroptera*)；アカザ科、中国長江以北からロシア沿海地方にかけ分布する。アルカリ土壤に多く、北方では幼苗を食する。